

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスト		
事業所名	やぎあん ユニット名:1階		
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3丁目1-12		
自己評価作成日	平成30年12月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成31年 1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとつめ。地域資源との結びつきを大事にしています。町内会、老人会に属していた方は、やぎあんに入居されてもそのつながりは持ち続けていただきたいので、本人様に伺いながら様々な活動へ参加していただいています。また、入居前にスポーツクラブへ通っていた方は、また通うことができるように調整しました。月に4回ではありますが、楽しみに通われています。お一人暮らしだった方がやぎあんに入居され、空き家になっている自宅にも、ご家族様の許可をもらって伺い、何度か草むしりやご近所の方との交流の機会を持つことができました。ふたつめ。日常的に「選ぶ」ことを大事にしています。ご飯の上に何をのせて食べるかを「選ぶ」、数種類のおやつの中から食べたいものを「選ぶ」、どこに出かけたか距離と方向の異なるコースから「選ぶ」など、自己決定ができるような機会を工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、太白区の日赤病院の西方で、バス道りに面したアパート等が建ち並ぶ住宅地であり、2ユニットの2階建である。「我がままに(意のままに)」の理念のもと、思い通りに過ごせるように配慮し、入居者の単独外出等ホームの外での活動を続けられるよう支援し、重度の方の故郷訪問等の思いを達成できるよう支援している。入居者は「食事、おいしいよ」と職員に声を掛け、入居者同士も楽しく談笑し、明るい雰囲気でご過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「我がままに」をもとに、入居者様ひとりひとりが自分らしく、自由に暮らせる環境づくりを心掛けています。入居者様の趣味や、入居前の活動の継続を支えています。	自分がしたいように振るまう意味の「我がまま」の理念で、入居者の趣味や活動をホームの生活だけでなく、スポーツクラブや老人会等地域の活動にも参加したり、友人と自由に交流できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民や他事業所、近隣の病院などと連携し、行事に参加して頂いたり、参加させて頂いています。	ホームの夏祭りに屋台を出して地域住民も参加し賑わう。園児がハロウィンに仮装で訪れ菓子を交換し、小学生が「町探検」で施設見学に訪れる。ホームの老人会に踊りのボランティアが来るなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年恒例の夏祭りなどの行事で、近隣の住民との交流を持つことで、施設の認知度や理解度を高めるよう心掛けています。住民の方から相談を受けることもありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施しており、施設内・外での行事や活動内容の報告を行なっています。出席者からアイデアやご意見も頂いており、活動や取組みに反映することもありました。	メンバーは町内会長、民生委員、地域包括職員、家族である。入居者が「好きな音楽を楽しんでいない」等の意見があり、家族からラジカセを借りて、かつて親しんでいたクラシックの音楽を用意した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に区役所と連携をとっています。生活保護の入居者様が多いため、必要に応じて保護課に相談に伺っています。	生活保護者の生活状況確認に、市の保護課の職員が来る。介護保険の更新手続きに区役所に行く。ケアマネの勉強会や集団研修に参加する。アスベスト調査やブロック塀の安全調査があり、確認報告した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なうことがどのような影響を及ぼすのか、なぜいけないのかを職員が理解しており、見守りを重視することで身体拘束は行なっていません。玄関の施錠も、安全面を考え夜間のみ行なっています。	優しい声掛けに留意している。耳が遠い人や理解しにくい人に「～して下さい」と命令的な言葉遣いになることがあるので、どのように対応したらいいか話し合っている。車イスで安楽な姿勢を保てない方に、オーダーメイドの車イスを相談中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修で学ぶ機会をもっています。入居者様の毎日のご様子を観察し、申し送り共有し、小さな変化でも見逃さないよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や内部研修で学ぶ機会をもっています。入居者様の中で成年後見制度(法定・任意どちらも)を利用されている方がいるため、どのようなものか、その必要性などは理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は時間に余裕を持って説明を行なうようにしています。ゆっくりと説明し、わかりやすい言葉に置き換えて理解・納得しやすいよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を行ない、ご家族様のアイデアやご意見、ご希望・ご要望を反映できる機会としています。地域の方や行政(地域包括支援センター職員)への参加もお願いしています。	家族に運営推進会議に出席しやすい曜日や時間帯を聞いた。認知症等の勉強会を企画し、面会できる機会を多くした。「ホームの駐車場が狭い」という意見がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期、不定期に職員との面談を行なっています。運営に関することだけでなく、様々な意見を聞くようにしています。	誕生会等、入居者の希望に添い支援するための意見が多い。重度の方の福島への訪問では知り合いの看護師を同行し、現地の食堂に特別食の手配をし実行した。野球観戦も計画し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期、不定期に職員との面談を行ない、能力や労働時間など、やりがいを持って働けるよう調整しています。場合によっては家庭の状況も聞き取りしながら、できるだけ柔軟に働ける体勢を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本としながら、個々の能力と必要性を勘案しながら、内部・外部の研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの運営推進会議へ参加し、情報交換を行なっています。様々な外部研修へも参加しています。管理者が認知症介護指導者のため、認知症介護研究・研修仙台センターとの情報交換も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員、看護師や介護員がそれぞれの視点で関わりを持ち、情報を共有することで、多方面から寄り添うことができています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	やぎあんのでできることは柔軟に対応できることを伝え、入居者様とご家族様の満足をできるだけ得られるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やぎあんへの入居が決まっても、地域資源や他サービスとのつながりを切らさないよう柔軟に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として様々な相談をしたり、家事作業の中で教えられたり、関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様ともコミュニケーションを多くとり、情報交換をするように心掛けています。ご家族様との外出もすすめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人との関係が途切れないよう、柔軟な対応をしています。入居前に通っていたスポーツクラブに、今の状態でも通えるよう、連絡・調整し、月に4回通われている方もいます。	近くの友人がホームに来たり、その友人と外で会っている。馴染みの神社へ行った後、友人と外出し楽しい時間を過ごす人がいる。娘がホームに泊まっていたり、正月に外泊する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調やその時の状態によって席をかえたり、入居者様同士が関わりを持てるよう配慮しています。比較のお元気な方が、様々な手伝いやお世話を下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様から連絡をいただくことがあります。相談事をうけたまわることもありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に通っていたスポーツクラブにまた行きたい、お酒が飲みたい、たばこを吸いたいなどのご希望があり、現在の健康状態を考慮しながら、できるかぎり思いが叶えられるよう工夫しています。	自宅の空き家に行って寛いだり草取りをし、顔馴染みの人と交流している。昔楽しんだというおはじきで、参加した入居者が熱中して遊んだ。麻雀の得意な人に、麻雀仲間を見つける努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの時点で情報を集めていますが、入居されてからもひとりひとり違う生活歴を考えながら、ご家族様とも常に情報交換をしています。会話の内容も、生活歴を反映するように工夫しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態(身体面、精神面ともに)を把握し、その日その時の状態に合わせて柔軟に対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行ない、カンファレンスでの意見交換も行なっています。ひとりひとりの状態に合わせた、チームで支えていくための介護計画を作成しています。	退院後の食事形態のあり方や外出の希望等を盛り込み、どのような関わり方をしていくか皆で意見を出し合い計画を作る。日常的な記録と介護計画が連動できる書式により、毎日計画と対比しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録を共有しています。その他にも、状態の変化に応じた申し送りを共有できるノートを活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にいらっしゃるご家族様にかわり、通院や入院の付き添いやお見舞いを職員で行なっていました。その時のニーズに沿って、柔軟に対応できるよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会などに参加することで、やぎあん内だけでは発揮できない本人様の力を発揮できています。(カラオケの会、民謡の会、認知症カフェなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回の訪問診療を行ない、健康管理を行なっています。その他でも、その時の状態に応じて通院の対応を柔軟に行なっています。	かかりつけ医で受診しているのは1人で他は協力医による訪問診療受診である。眼科、皮膚科等専門医への通院にはほとんど職員が付き添い、フェイスシートや生活状況等の「受診時持ち出し袋」を持参する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務しているため、常に健康状態を申し送り、処置や通院など最善の対応をするよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会に行き、病院看護師との情報交換を行なっています。地域の研修会などでも情報交換を行ない、病院関係者との連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「重度化における対応の指針」の説明を行なっています。その時はなかなか想像できないご家族様が多いため、状態の変化に応じて何度も説明と同意を確認し、安心して過ごせるよう配慮しています。	看取りの時期について医師から家族に説明がある。重度の入居者の方の要望であった福島への外出を、緊急時の安全対策を講じながら実施し、念願を叶えて看おくることができた。看取りの教育は管理者と看護師で実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、職員で共有しています。初期対応は看護師や管理者の指示のもと、対応・実践できています。内部研修も定期的に行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、多くの職員がそれぞれの役割を果たせるようにしています。地域住民の協力はほぼ得られていませんが、地域包括支援センターや近隣病院の看護師の協力がありました。	避難訓練を夜間想定も含め実施している。消防署の立ち合いも調整している。地域住民が参加するよう、隣接の大家や近くのコンビニ、地域関係者に声掛けを継続して頂きたい。	避難訓練の計画を詳しく作っているが、反省事項が残されていない。参加職員の所見等改善すべき事項を記録し、次の訓練に活用して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせた対応を心掛けており、入居者が心地よいと感じることができる声かけや内容でコミュニケーションをとっています。	名前は「さん」付けであるが、旧姓や小さい頃の呼び名の人がある。排泄を失敗した人に周囲に気付かれないよう身振りや合図等でトイレに誘導する。プライドの高い人の、好む居場所を尊重する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出などの生活上のご希望、ご要望はひとつひとつ伺っています。なかなか判断することが難しい方へも、自己選択・自己決定しやすい声かけを柔軟に行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事としてドライブで出かける際、気乗りしない方は職員と一緒に施設で過ごして頂きました。体調や気分など、その時々状態を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気を配り、清潔感を大切にしています。洋服の選択など、普段の服装か外出かの場面に合わせて本人様のご希望に添うよう声かけしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みを伺い、献立に反映しています。目でも楽しめるよう、盛り付けも工夫しています。入居者様も下ごしらえから盛り付けまで、食器洗いや片付けも、できることを一緒に行なっています。	献立は職員が作り、食材は入居者と買い出しに行く。入居者の好みは寿司、おはぎ等で、刺身も提供し喜ばれる。男性の入居者も食材の皮むき等をやり、会話も弾む。職員も皆と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分量は、ひとりひとりの状態に合わせて提供しています。必要に応じて医師、看護師に相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔ケアを行なうことが難しい方は、その方に合った介助を毎食後行なっています。歯科医師とも情報交換しながら、ひとりひとりに合った方法で口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に紙おむつとパットを使用しているも、やぎあんに来られてからトイレでの排泄ができ、布パンツに替えることができ方がいます。。パットを使用している方も、状態に合わせてトイレ介助を行なっています。	おむつの人も日中は出来るだけトイレで、座位が難しい人はポータブルトイレで排泄している。退院時おむつだった人の体調や移動可能状況に合わせた支援を続け、布パンツで生活できるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳や野菜を多くした食事などで、便秘が改善された方が多くいます。それでも排便が2日ない方は、下剤を内服して頂いていました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は、ひとりひとりのご希望を伺いながら、夜間以外は柔軟に対応しています。気乗りしない方も、その理由を伺いながら、同性介助を行なうなどプライバシーに配慮しています。	週に2~3回入浴している。入浴拒否の人には時間を置いたり職員を変えて誘う。「一番風呂ですよ」に喜ぶ人が多い。ゆず湯や温泉地名の入浴剤を使用している。重度の人に2人介助やシャワーの支援をする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイキングや居室の温度調節をこまめに行なっています。眠れない方には、じっくりと傾聴することで安心感を持っていただくよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の内服薬のチェックは、誤薬をしないよう複数の職員で行なっています。薬の作用や副作用について、特に気をつけなければいけない点は職員で共有できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の老人会に参加していただいたり、食事づくりや洗濯物干しなどの家事に力を発揮していただいています。月ごとの壁飾りの作成は、複数の入居者様が楽しみにされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の老人会や買い物、スポーツクラブなど、ご希望に合わせて参加できるよう支援しています。庭掃きでは、近隣住民との会話も生まれています。ドライブでは、ご要望に合わせて定義山に行きました。	近くのコンビニや薬局に歩いて買い物に行く。入居者の希望に添いフロアごと、長町のひな野や川崎町の杜の湖畔公園、山形県のチェリーランド等に出掛ける。1年に2回遠足と称し、入居者全員で、定義山やうみの杜水族館等に出掛ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何名かはお自分で財布の管理をされており、外出時にもお買い物もされています。その他の方も、お預かりしているお金から買い物を楽しむことができるよう声がけ配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話をお持ちの方がいます。自由に通話されています。必要に応じて施設の電話も使えます。手紙のやりとりも、代読や代書を行ない、必要に応じた支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に共用スペースの明るさや室温に配慮しています。月ごとに壁飾りをかえるなどし、季節感を持って頂けるようにしています。	入居者の書いた習字や絵手紙を飾っている。今年の干支の猪の壁掛けや節分のちぎり絵を飾り、山茶花の花を飾って季節を感じることができる。入居者はレクリエーションに元気な声で参加し、畳の小上がりやソファで銘々くつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で、作品作りなどをしながら楽しく過ごされています。各自がマイペースで過ごすことができるよう、目配り・気配りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自でご持参頂いた家具や飾り物で、居心地のいい生活環境づくりができるようにしています。野球好きの入居者様は、たくさんグッズを飾られています。	空調とクローゼット、ベッドが備え付けである。遺影を飾り、人形や小鳥の飾りを置き、自分の部屋として生活している。ポータブルトイレはこまめに消毒、消臭剤を使用し臭いが残らないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけひとりひとりの力を発揮できるよう、必要以上に支援することはせず、見守る、待つことを大切にしています。必要に応じては、状態に合った介助をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053	
法人名	有限会社クラスタ	
事業所名	やぎあん ユニット名:2階	
所在地	宮城県仙台市太白区八木山南3丁目1-12	
自己評価作成日	平成30年12月22日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	平成31年1月25日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとつめ。地域資源との結びつきを大事にしています。町内会、老人会に属していた方は、やぎあんに入居されてもそのつながりは持ち続けていただきたいので、本人様に伺いながら様々な活動へ参加していただいています。また、入居前にスポーツクラブへ通っていた方は、また通うことができるように調整しました。月に4回ではありますが、楽しみに通われています。お一人暮らしだった方がやぎあんに入居され、空き家になっている自宅にも、ご家族様の許可をもらって伺い、何度か草むしりやご近所の方との交流の機会を持つことができました。ふたつめ。日常的に「選ぶ」ことを大事にしています。ご飯の上に何をのせて食べるかを「選ぶ」、数種類のおやつの中から食べたいものを「選ぶ」、どこに出かけたか距離と方向の異なるコースから「選ぶ」など、自己決定ができるような機会を工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、太白区の日赤病院の西方で、バス道りに面したアパート等が建ち並ぶ住宅地にあり、2ユニットの2階建である。「我がままに(意のままに)」の理念のもと、思い思いに過ごせるように配慮し、入居者の単独外出等ホームの外での活動を続けられるよう支援し、重度の方の故郷訪問等の思いを達成できるよう支援している。入居者は「食事、おいしいよ」と職員に声を掛け、入居者同士も楽しく談笑し、明るい雰囲気過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:やぎあん)「ユニット名:2階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「我がままに」に基づき、入居者様本位のケアを提供するよう努めています。	自分がしたいように振るまう意味の「我がまま」の理念で、入居者の趣味や活動をホームの生活だけでなく、スポーツクラブや老人会等地域の活動にも参加したり、友人と自由に交流できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の「夏祭り」を中心に地域住民との交流を深めるとともに、散歩や落ち葉掃きなどを行なう際、挨拶を交わすことで交流を図っています。	ホームの夏祭りに屋台を出して地域住民も参加し賑わう。園児がハロウィンに仮装で訪れ菓子を交換し、小学生が「町探検」で施設見学に訪れる。ホームの老人会に踊りのボランティアが来るなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修会や集まりなどに参加し、その場では情報交換できています。キャラバンメイトがいるため、要請があれば認知症サポーター養成講座を行なうことがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施しており、施設内・外での行事や活動内容の報告を行なっています。出席者からアイデアやご意見も頂いており、活動や取組みに反映することもありました。	メンバーは町内会長、民生委員、地域包括職員、家族である。入居者が「好きな音楽を楽しんでいない」等の意見があり、家族からラジカセを借りて、かつて親しんでいたクラシックの音楽を用意した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に区役所と連携をとっています。生活保護の入居者様が多いため、必要に応じて生活保護課に相談に伺っています。	生活保護者の生活状況確認に、市の保護課の職員が来る。介護保険の更新手続きに区役所に行く。ケアマネの勉強会や集団研修に参加する。アスベスト調査やブロック塀の安全調査があり、確認報告した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なうことがどのような影響を及ぼすのか、なぜいけないのかを職員が理解しており、見守りを重視することで身体拘束は行なっていません。玄関の施錠も、安全面を考え夜間のみ行なっています。	優しい声掛けに留意している。耳が遠い人や理解しにくい人に「～して下さい」と命令的な言葉遣いになることがあるので、どのように対応したらいいか話し合っている。車イスで安楽な姿勢を保てない方に、オーダーメイドの車イスを相談中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修で学ぶ機会をもっています。入居者様の毎日のご様子を観察し、申し送り共有し、小さな変化でも見逃さないよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や内部研修で学ぶ機会をもっています。入居者様の中で成年後見制度(法定・任意どちらも)を利用されている方がいるため、どのようなものか、その必要性などは理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は時間に余裕を持って説明を行なうようにしています。ゆっくりと説明し、わかりやすい言葉に置き換えて理解・納得しやすいよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を行ない、ご家族様のアイデアやご意見、ご希望・ご要望を反映できる機会としています。地域の方や行政(地域包括支援センター職員)への参加もお願いしています。	家族に運営推進会議に出席しやすい曜日や時間帯を聞いた。認知症等の勉強会を企画し、面会できる機会を多くした。「ホームの駐車場が狭い」という意見がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期、不定期に職員との面談を行なっています。運営に関することだけでなく、様々な意見を聞くようにしています。	誕生会等、入居者の希望に添い支援するための意見が多い。重度の方の福島への訪問では知り合いの看護師を同行し、現地の食堂に特別食の手配をし実行した。野球観戦も計画し支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期、不定期に職員との面談を行ない、能力や労働時間など、やりがいを持って働けるよう調整しています。場合によっては家庭の状況も聞き取りしながら、できるだけ柔軟に働ける体勢を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本としながら、個々の能力と必要性を勘案しながら、内部・外部の研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの運営推進会議へ参加し、情報交換を行なっています。様々な外部研修へも参加しています。管理者が認知症介護指導者のため、認知症介護研究・研修仙台センターとの情報交換も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに時間をかけています。入居されてからも、会話の中や観察から得た情報をもとに、要望や希望をくみとり、安心して生活できるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに時間をかけています。入居されてからは、面会の際に日常のご様子を伝え、新たな要望や希望がないかを伺い、良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	やぎあんへの入居が決まっても、地域資源や他サービスとのつながりを切らさないよう柔軟に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちを傾聴し、また、個々の生活ペースに合わせた生活ができるよう柔軟な対応をすることで、信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に一度ご様子をお伝えする手紙の中で、情報を共有しています。その中でご家族様の気持ちを伺い、気持ちに寄り添うよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	県外出身(福島県)の方がいるので、先日ドライブで訪れました。近隣地域の出身の方は、日常的にお買い物に同行して頂くことで、これまでの生活の延長線上で、生活を継続できています。	近くの友人がホームに來たり、その友人と外で会っている。馴染みの神社へ行った後、友人と外出し楽しい時間を過ごす人がいる。娘がホームに泊まっていたり、正月に外泊する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で楽しめるようなレクリエーションを企画してはいますが、認知症の状態や身体状況から参加できない方もいます。表情から、楽しいことをしている場の雰囲気は味わって頂いていると感じています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要に応じて主に電話でやりとりをしています。ご家族様からご相談の連絡がある時もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションから得た情報と、表情や仕草などの観察から得た情報をもとに、求めていることを支援できるよう努めています。加えて、本人様の希望・要望を最優先にしています。	自宅の空き家に行って寛いだり草取りをし、顔馴染みの人と交流している。昔楽しんだというおはじきで、参加した入居者が熱中して遊んだ。麻雀の得意な人に、麻雀仲間を見つける努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際してのアセスメントを基本とし、入居されてから本人様やご家族様から得た情報、観察から得た情報を職員間で共有し、生活環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの能力が発揮できるような家事活動を行なっています。失敗体験のないように見守り、必要に応じてサポートしています。行なったことは記録に残し、状況の把握に活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ひとりひとりに担当職員をつけ、定期的にモニタリングを行なっています。カンファレンスで色々な職員の意見を聞きながら、より良い介護計画の立案につなげています。	退院後の食事形態のあり方や外出の希望等を盛り込み、どのような関わり方をしていくか皆で意見を出し合い計画を作る。日常的な記録と介護計画が連動できる書式により、毎日計画と対比しながら支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な記録と介護計画が連動できるような書式の記録用紙を用いています。それを職員間で共有し、実践の見直しやより良い介護計画へつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の声を傾聴し、本人様のご希望に添えるようどのような対応ができるか、管理者や介護支援専門員、看護師に相談しながら、柔軟に対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会などに参加することで、やぎあん内だけでは発揮できない本人様の力を発揮できています。(カラオケの会、民謡の会、認知症カフェなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療で健康管理を行なっています。その他、必要に応じて通院もしています。(24時間対応)	かかりつけ医で受診しているのは1人で他は協力医による訪問診療受診である。眼科、皮膚科等専門医への通院にはほとんど職員が付き添い、フェイスシートや生活状況等の「受診時持ち出し袋」を持参する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で配置されているので、日常的な報告・連絡・相談を行ない、いつ用に応じて医療につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会に行き、病院看護師との情報交換を行なっています。地域の研修会などでも情報交換を行ない、病院関係者との連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「重度化における対応の指針」の説明を行なっています。その時はなかなか想像できないご家族様が多いため、状態の変化に応じて何度も説明と同意を確認し、安心して過ごせるよう配慮しています。	看取りの時期について医師から家族に説明がある。重度の入居者の方の要望であった福島への外出を、緊急時の安全対策を講じながら実施し、念願を叶えて看おくことができた。看取りの教育は管理者と看護師で実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行ない、急変時の対応や事故発生時の対応ができるようにしています。不安のあるときでも、看護師や管理者に報告・連絡・相談できる体勢ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した避難訓練を行なっている。近隣十人にも呼びかけているが、なかなか連携がとれていない。行政(地域包括支援センター職員や近隣病院の看護師)の方は参加されました。	避難訓練を夜間想定も含め実施している。消防署の立ち合いも調整している。地域住民が参加するよう、隣接の大家や近くのコンビニ、地域関係者に声掛けを継続して頂きたい。	避難訓練の計画を詳しく作っているが、反省事項が残されていない。参加職員の所見等改善すべき事項を記録し、次の訓練に活用して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応は、できる限り丁寧に行なっています。その方がわかりやすい声かけの方法を工夫しています。	名前は「さん」付けであるが、旧姓や小さい頃の呼び名の人がいる。排泄を失敗した人に周囲に気付かれないよう身振りや合図等でトイレに誘導する。プライドの高い人の、好む居場所を尊重する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様が何をしたいのか、じっくりと伺いながら、答えやすい聞き方でその人らしい自己決定ができるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りご希望やご要望を伺いながら、ひとりひとりの生活ペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の整容に気を配るのはもちろん、外出時など本人様の希望する服装を尊重しながら、季節や気候、天候に合わせた服装ができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や季節の食材などを毎日の献立に反映しています。食事の準備や片付けも、ひとりひとりの力が発揮できるよう声がけし、できる手伝いの工夫をしています。	献立は職員が作り、食材は入居者と買い出しに行く。入居者の好みは寿司、おはぎ等で、刺身も提供し喜ばれる。男性の入居者も食材の皮むき等をやり、会話も弾む。職員も皆と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎日記録し、召し上がる量が少ない時には栄養補助食品などで補っています。食事形態もひとりひとりの状態に合わせた、食べやすい物になるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。義歯は夜間お預かりし、義歯洗浄剤で浸け置き消毒しています。自立されている方も、支障が出ていないか観察・声がけしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況により、毎日のトイレが難しい方でも、排便時はポータブルトイレに座っていただくよう工夫しています。トイレ案内時、ズボンの上げ下げや拭き取りなど、できることは継続できるよう働きかけています。	おむつの人も日中は出来るだけトイレで、座位が難しい人はポータブルトイレで排泄している。退院時おむつだった人の体調や移動可能状況に合わせた支援を続け、布パンツで生活できるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量に留意しながら、食物繊維を多く摂っていただけるような献立にしています。運動(体操など)の機会もつくっており、トイレ時には腹部のマッサージを行なうこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい時、気分ののらない時を伺いながら、ひとりひとりのタイミングで入浴を楽しんで頂けるようにしています。	週に2~3回入浴している。入浴拒否の人には時間を置いたり職員を変えて誘う。「一番風呂ですよ」に喜ぶ人が多い。ゆず湯や温泉地名の入浴剤を使用している。重度の人に2人介助やシャワーの支援をする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠気がみられた際は、たとえ短い時間でも休んでいただくようにしています。夜間の睡眠サイクルもひとりひとり違うので、その方に合ったいい睡眠がとれるよう、声かけや介助の工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化などに合わせて、内服薬が変更になることがあります。その際はチェック表を更新し、3人の職員で確認しています。作用や副作用については、職員間で理解の差があるのが現状です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大勢を対象としたレクリエーションを行なうこともありますが、個別のアクティビティに力を入れています。書道や園芸活動など、ひとりひとりの楽しみを大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴をかねてドライブに出かけたり、近所のスーパーなどの買い物に同行して頂いています。福島県出身の方の外出を企画し、猪苗代湖、鶴ヶ城方面に出かけました。	近くのコンビニや薬局に歩いて買い物に行く。入居者の希望に添いフロアごと、長町のひな野や川崎町の杜の湖畔公園、山形県のチェリーランド等に出掛ける。1年に2回遠足と称し、入居者全員で、定義山やうみの杜水族館等に出掛ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはやぎあんで管理していますが、お金を持つことで安心される入居者様もいらっしゃるため、遣いすぎているか、管理は十分にできているかななどを観察・声がけしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたい、と言うことは殆ど聞かれませんが、ご家族様から電話があった際にはお話しする機会を持っています。毎年ご家族様に年賀状を出せるよう支援も行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は個人差があるため、快適と感じる方と寒いと感じる方など、調整が難しい現状があります。居間兼共用スペースには、入居者様が作成した作品を飾り、ご自分のものを見ることで自信や満足につながっている方もいます。	入居者の書いた習字や絵手紙を飾っている。今年の干支の猪の壁掛けや節分のちぎり絵を飾り、山茶花の花を飾って季節を感じることができる。入居者はレクリエーションに元気な声で参加し、畳の小上がりやソファで銘々くつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が自然に会話できるようなテーブルの配置にしています。おひとりで過ごされる方、何人かで会話される方など、ひとりひとりに合わせられるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物、ご自宅で使っていた家具など、思い入れのある物をできるだけ持ってきていただくようにしています。居心地のいい空間作りを心掛けています。	空調とクローゼット、ベッドが備え付けである。遺影を飾り、人形や小鳥の飾りを置き、自分の部屋として生活している。ポータブルトイレはこまめに消毒、消臭剤を使用し臭いが残らないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室がわかりやすいよう、お名前を書いたプレートを掲示しています。トイレもわかりやすいよう、見やすい位置に表示があります。		